



## とちぎ性暴力被害者サポートセンター 「とちエール」を開設しました

7月1日当院では、県の委託を受け、性犯罪や性暴力被害者の総合的な相談窓口となる「とちぎ性暴力被害者サポートセンター」を開設しました。愛称は、被害者に寄り添いながらエールを送りたいという意味を込め、「とちエール」となりました。

同センターは、センター長に飯田俊彦産婦人科主任診療科長が就任し、女性看護師とケースワーカーの2名が専門相談員として相談業務を実施します。被害者のニーズに基づいて関係機関・団体との“つなぎ役”となり、被害直後の医療やカウンセリング、捜査機関への届け出や弁護士への相談など必要な支援を行います。医療支援は、県内の複数の医療機関の協力を得ながら実施します。



相談室



## 「救急探検ツアー」に親子25人。 大人だって興味津々！

7月28日、宇都宮市は同市救急医療対策連絡協議会と共同で「救急探検ツアー」を開催しました。宇都宮市で募集した小学3年生から6年生までの子ども達14名と、その保護者11名が当院にも「探検」にやってきました。

今年で5回目となるこの企画は、市民が救急医療の現場に触れることで、救急受診への理解を深めてもらうことが目的で行われており、当院のような救急病院や消防本部・宇都宮市夜間休日診療所を巡るツアーです。当院ではまず副院長で救命救急センター長の小林健二先生がスライドで「救急」の概要を説明しました。



小林副院長が救急外来の説明中



ヘリポートで記念写真

その後、救急外来へ行き、処置室内を見学。次に、緊急撮影なども行う放射線科へ行き、医療技術部の小林桂副部長からCTなどの放射線装置についての説明を聞きました。最後にヘリポートを見学し、「探検」は終了となりました。

初めて聞く救急医療の話真剣にメモしたり、質問したりする姿や、普段見ることのできない医療機器やヘリポートにお子さんだけでなく保護者の方も興味津々で、目がキラキラ輝いているのが印象的でした。



## 「医師になりたい」中学生を対象に ブラック・ジャックセミナーを開催

8月15日、宇都宮市内の中学生を対象に『ブラック・ジャックセミナー』を開催しました。今年で2回目となる本セミナーは、外科医の仕事を経験してもらい医療に対する理解を深めてもらうことを目的に企画しました。昨年同様、定員を大幅に超える応募があり、応募動機を基に選考させて頂き42名が参加しました。

参加者は、当院の医師の指導のもと、メスやピンセットを使い皮膚に見立てたスポンジを縫合したり、超音波メスで鶏肉を切るなどの手術体験をしました。

参加者からは「この体験を通して、医師になりたいという気持ちがさらに強くなった」「普段体験できない体験が出来て医療に更に関心を持てた」等のコメントが聞けてスタッフ一同大満足です。



ほうごう  
縫合体験